

## 2015年は図書館創立120周年

市立図書館 ☎25-2145

「尾張津島天王祭」を始め長い歴史と文化が受け継がれる津島市。津島が誇る遺産は多々ありますが、県内最古、全国では31番目という長い歴史があるのが、この図書館です（現在は全国に約3250館）。図書館は創立当時から約貴重な図書や珍しい資料を大切に所蔵し、津島の歴史や文化を今に伝えていきます。

今年、津島市立図書館は創立120周年という節目の年を迎えます。図書館をもっと知ってもらうため、これまで歩んできた歴史をご紹介します。

### 明治の津島図書館

津島市立図書館は、これまで名称を12回、場所を10回も変更しました。いずれも現在確認できる中で日本最多です。津島図書館の創立は、明治28年（1895）12月、日清戦争の勝利を記念して津島高等小学校（今市場町）に設置された「凱旋記念書籍館」に遡ります。設置者は海東海西郡教育会で、生徒の学習補助を目的とした図書館でしたが、日清戦争の寄附金残額ですべてを賄ったため、「本棚三個」しか持たない貧弱なものでした。

津島の図書館が正式に公共図書館として認可されたのは、明治30年（1897）のこと。この年9月、館外貸出を含む利用規則や設置規程を定め、県下初の公共図書館として文部省から認可さ

れました。

当時、全国の公共図書館（官公私立）は津島図書館を含め31館だけであり、この地域における教育関係者の熱意が早くから高かったことがうかがえます。なお、初代図書館長には加藤喜右衛門（津島町出身の衆議院議員）、2代図書館長には大橋武左衛門（津島町長）が就任。特に大橋館長（町長兼任）は、海部地域の各高等小学校に図書館の巡回文庫を設置し、広くサービスを展開しました。こうしたことから、明治44年（1911）には蔵書数4千、年間利用者1万5千人を突破。県内9館（当時）の中で圧倒的な利用数を誇ったため、新聞の全国欄でも紹介されました。



### 大正の津島図書館

大正2年（1913）7月、海東郡と海西郡は合併し、海部郡が誕生しました。図書館も「海部郡立図書館」と改称し、大正5年には新築された海部郡役所の付属建物（西柳原町）へ移転しました。この時、海西郡教育会図書館を吸収し、蔵書は6千冊を数えるまでに増加します。

大正12年（1923）、行政改革により郡制が廃止されると図書館は郡立か

ら郡教育会へ移管されます。大正15年（1926）7月、郡制の完全廃止により郡役所は閉鎖。教育会も解散したため、多くの利用者で賑わっていた図書館は廃止されました。

その後、図書館の蔵書は八開村（愛西市）へ無償譲渡されます。ただし、八開村では村立図書館を設立するだけの予算がなく、村内の保管先で多数の図書が散逸しました。

### 昭和初期の津島図書館

昭和2年（1927）6月、津島町では図書館の設置を強く希望し、八開村で保管されていた蔵書を買取りました。10月、旧海部郡立図書館の蔵書を再び揃えた「津島町立図書館」（西柳原町）を開館。以後、6度の移転で混乱しながらも蔵書の整理と充実に努めました。

とりわけ図書館の充実に意欲的だった小島音三郎（元津島町長）、江上定義（元小学校長のち市江村長）の両館長は、歴史・文学・郷土資料を飛躍的に充実させました。「野口米次郎文庫」を開設したのもこの時です。

### 戦後の津島図書館

昭和22年（1947）、南門前町に戻った図書館は市民の図書館として親しまれていきます。しかし、昭和34年（1959）の伊勢湾台風で建物が大きく破損、36年（1961）の集中豪雨では周囲が水没するなど被災し、その後は建



▲海部郡役所内・海部郡立図書館



▲海東郡立戦勝記念図書館

物の老朽化もあって極端に利用が低迷しました。

しかし、昭和53年（1978）に図書館新設要望が上がると、市民の図書館への関心は高まってきました。とりわけ昭和58年（1983）の「図書館米寿祭」や、その後に開催された「図書館まつり」は全国的にも知られるほど盛り上がりを見せました。

こうした動きもあり、平成元年（1989）、市は図書館建設を計画します。財政上の問題でしばらく延期されましたが、平成10年（1998）、ついに老松町の市営プール跡地に図書館建設工事が始まりました。

## 新館オープン

平成12年（2000）11月、帆船を模した斬新なモデルと県下第4位の延床面積（当時）となる新館が完成し、県内外に広く宣伝されました。当時催された盛大な開館式典は、まだ記憶に新しい方も多いと思います。

オープンから7年後、図書館は指定管理者制度を導入し、月曜日開館や津島駅構内の返却ポスト設置など、より利用しやすい環境を整えてきました。また、市内の古写真や映像、地元新聞などを資料集としてまとめ、新たな郷土資料も作成するなど文化活動の拠点づくりを進めています。こうした事業は、文部科学省により特徴的な取り組みとして紹介され、「図書館実践事例集」（2014年）に掲載されました。現在図書館を利用される方は年間27

万人、蔵書数は28万点を超えています。今秋には120周年を記念し、記念行事や冊子の発行を予定しています。今後津島の誇る歴史ある図書館にどうぞお越しくください。

## 【館名の移り変わり】

- ① 凱旋記念書籍館（1895～1897）
  - ② 津島高等小学校図書館（1897～1900）
  - ③ 海東図書館（1900～1901）
  - ④ 海東郡図書館（1901～1904）
  - ⑤ 海東郡立図書館（1904～1907）
  - ⑥ 海東郡立戦勝記念図書館（1907～1913）
  - ⑦ 海東郡立図書館（1913～1923）
  - ⑧ 海部郡教育会附属図書館（1923～1926）
  - 【廃館】（1926～1927）
  - ⑨ 津島町立図書館（1927～1947）
  - ⑩ 津島市立図書館（1947～1951）
  - ⑪ 津島市立津島図書館（1951～1964）
  - ⑫ 津島市市立図書館（1964～2000）
  - ⑬ 津島市立図書館（2000～現在）
- 問合 市立図書館 ☎25-2145



## おはなしくりりん

普段読み聞かせをしている方、これから始めようという方、他の方の読み聞かせを楽しみながら、自分も読み聞かせをしてみましよう。イベント終了後には、子どもの本専門店「花のき村」店主 伊藤義明氏による講演会も予定しています。

日時 平成27年10月25日(日)

午後1時～4時

場所 市立図書館2階大集会室

その他 市外のグループや個人での参加も歓迎します。

申込 9月25日(金)まで。図書館児童力

ウンターにて、または図書館ホームページからEメールで。

問合 市立図書館 ☎25-2145

## つしま歩き学び講座

### 津島市の学区巡り 東小学校区

津島市内には、8つの小学校区があります。今回は、そのうち東小学校区にある寺社や名所を巡ります。

日時 9月20日(日) 午前10時～正午

集合場所 三菱東京UFJ銀行前(津島駅前)

講師 大橋忠彦氏(津島ガイドボランティア会長)

定員 なし

申込 不要

問合 市立図書館 ☎25-2145



▲昭和36年集中豪雨、津島市立津島図書館



▲津島町立図書館(南門前町)、徳富蘇峰を迎えて